

報告書抄録

ふりがな	しちじょううらいせき・しなこていせき							
書名	七条浦遺跡・志那湖底遺跡							
シリーズ名	琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	10							
編著者名	濱 修・小竹森 直子 植田 弥生(株式会社パレオ・ラボ)							
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 / 財団法人滋賀県文化財保護協会							
所在地	滋賀県大津市京町四丁目1番1号 / 滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2							
発行年月日	平成23年(2011年)3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しちじょううら 七条浦遺跡	くさつししがき 草津市下笠町 地先	25206	107	35度 2分29秒	135度54分38秒	6,177㎡	1983・ 1985・ 1989・1990 年度	湖岸堤工事 ほかに伴う 事前調査
しなこてい 志那湖底遺跡	くさつししな 草津市志那町 地先ほか	25206	147	35度 3分35秒	135度55分18秒	20,207㎡	1981年度～ 1998年度	湖岸堤工事 ほかに伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
七条浦遺跡	遺物散布地	縄文時代～古代		流路・溝・土坑	縄文土器・弥生 土器・土師器・ 須恵器・石器・ 木製品・金属 器・銭貨	弥生時代前期～中期の遺物包含 層・生活面を確認		
志那湖底遺跡	墓跡	近世以降		水路				
	集落跡	縄文時代			縄文土器・石器	縄文時代後期末～晩期初頭の土器 棺墓群を検出		
		弥生時代～古代		流路・溝・土 坑・ピット	弥生土器・土師 器・須恵器・ 瓦・土製品・石 器・木製品	弥生時代中期と古墳時代の遺物 を多量に含む流路・溝を検出		
要 約	<p>湖岸の浜堤上に立地する七条浦遺跡では、弥生時代前期～中期の遺物包含層を確認し、明確な遺構は認められなかったものの当該期の遺構が存在する可能性を示した。また、出土遺物の中に玉砥石が含まれていることから、当該地においても玉生産が行われていたと推定される。</p> <p>志那湖底遺跡では、潜水試掘調査により沖合300m地点まで縄文土器を主体とする遺物包含層が広がっていることを確認し、発掘調査において縄文時代後期末～晩期初頭の土器棺墓群を検出した。また、湖岸近くでは、主として弥生時代中期後半の遺物と古墳時代の良好な資料を多量に包含する流路・溝を検出し、その河畔には土坑などを検出したことから集落の存在が明らかになった。</p>							